

# ふくい2030年の姿・Ⅱ

—私たちの暮らし つながる希望と幸福—

2009（平成21）年3月

「ふくい2030年の姿」検討会



## はじめに

2005年3月に「ふくい2030年の姿 -25年後のふくい 夢と希望の未来像-」（前報告書）を作成してから4年が経過しましたが、この間、中国のめざましい経済発展や石油をはじめとするエネルギーの高騰など、これからの世界のあり方に大きな影響を及ぼす出来事が続きました。

また、規制を廃し市場に全てを任せるという新自由主義・市場原理主義の行き過ぎが、アメリカ発の金融危機とそれを発端とした世界不況や、都市と地方、正社員と派遣社員など格差の拡大、世界的な環境破壊をもたらしたとの批判が強まっています。これを受け保護主義的な揺り戻しなどが起きていますが、新しい世界の形はまだ見えてきません。

2007年6月に、検討会のメンバーを大幅に入れ替えて、この報告書の作成に着手しましたが、作業を進める過程でも社会経済情勢は大きく変動しました。前報告書では、福井の25年間の変化を多くのデータから読み取り将来を予測しましたが、現在の大きな動きがどのように将来に影響を及ぼすのか、まだ現在のデータだけでは計りきれません。

このため、今回は、福井を取り巻く環境の変化を大学や研究機関などの先進的な知見や研究成果などから学び、理解し報告書に反映しました。また、2007年11月に実施した「福井の暮らしをよりよくするためのアンケート」の結果などを踏まえ、福井の特長を活かした「暮らしの姿」について検討し、2030年の世代ごとの物語を、私たちの夢も織り込みながら描こうと考えました。

前報告書が2030年の「社会全体の姿」を描いたのに対し、この報告書は2030年の社会における福井人の「暮らしの姿」を描いており、前報告書の続編と位置付けられます。また、この報告書では、描いた2030年の姿を実現するための「行動」についても考え、「希望の輪」と「地域の幸福度（QOC）」の活用を提案します。

この報告書を作成する過程では、東京大学社会科学研究所希望学プロジェクトや東京大学総括プロジェクト機構ジェロントロジー寄付研究部門の先生方をはじめ様々な大学、研究機関、企業の方々から多くのアドバイスやご意見をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

前報告書とこの報告書を併せた2030年の姿は、まだまだ十分なものではありませんが、報告書を読んでいただいた方々が、2030年の自分の姿を思い描き、そのための行動を起こす一助となれば幸いです。

2009（平成21）年3月

「ふくい2030年の姿」検討会

# 目 次

第1部  ふくい2030年の暮らし	1
第1章 「ふくい2030年の姿」見直しの視点	
1-1 前報告書の概要と見直しの視点	1
1-2 つながる希望と幸福	5
第2章  ふくいを取り巻く環境の変化	16
2-1 グローバル化	18
2-2 環境とエネルギー	28
2-3 科学技術（イノベーション）	33
2-4 人口の大都市問題	39
第3章  ふくいの暮らしの特長	44
3-1 家族の希望が広がる	45
3-2 健康長寿を楽しむ	52
3-3 食のメイドイン福井	62
3-4 働き方で一人ひとりが輝く	70
3-5 教育が夢をはぐくむ	77
3-6 交通は楽しく優しく	83
3-7 自然・環境を活かす	92
3-8 地域でつながる	100
第2部  2030年のふくい物語	108
第1章  2030年の世代の姿	109
第2章  2030年のふくい物語	124
(蟹田家の物語)	
2-1 子どもの生活・・・【子ども世代】	125
2-2 父親・母親の生活・・・【壮年世代】	132
2-3 祖父母の生活・・・【達年世代】	137
(仙水家の物語)	
2-4 若者の生活・・・【青年世代】	144
2-5 父親・母親の生活・・・【熟年世代】	150
2-6 祖父母の生活・・・【老年世代】	154
【参考資料】	
「ふくい2030年の姿」検討会 検討経過等	157
「ふくい2030年の姿」検討会 名簿	159
参考文献一覧	160